

広報 アノ口

平成28年9月1日
第98号
栗山町開拓記念館

栗山町の指定文化財

栗山町の文化財保護条例は平成十六年（二〇〇四）に制定された。

これにより町内に所在する文化財のうち国又は北海道が指定するものを除き、栗山町にとって重要なものの保存及び活用の為必要な措置を講じ、町民の文化向上に資することができるようになった。

栗山町では平成十八年に国の登録有形文化財として、小林酒造（株）の住宅や酒蔵などの建物群、北海道自然環境保全文化財として御大師山を中心とする栗山公園等が指定されている。

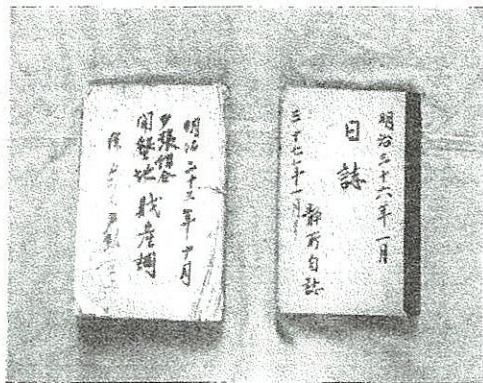
文化財保護委員会は、町内の有形、無形の貴重な文化財を未永く保護し、後世に伝えていくべき情報を収集し、調査検討をしながらこれまでに次の十件を文化財に指定した。

一、泉記念館（有形文化財・建造物）

平成十八年（二〇〇六）指定
最初の入植地室蘭から明治二十一年（一八八八）に当地に入植した本町開拓の祖、泉麟太郎翁が明治三十一年（一八九八）に建築した住宅で昭和五十年（一九七五）まで子孫が居住していた。茅葺屋根木造平屋・床面積・一三〇㎡（約三十九坪）

二、泉家文書（有形文化財・古文書）

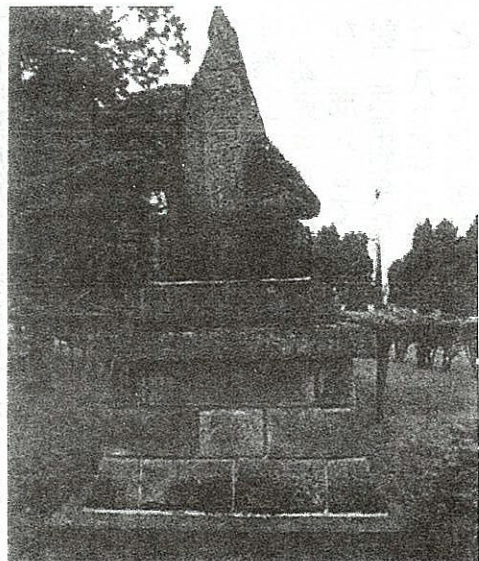
平成十八年（二〇〇六）指定
泉翁は数多くの公職を歴任し、明治初期から昭和初期までの公私を問わず多岐に亘り日誌や文書を残している。これらの文書は泉翁自身の業績のみならず栗山町（角田村）の歴史を知るために欠く事のできない貴重なものである。



三、泉麟太郎君記念碑（有形文化財・石碑）

平成十八年（二〇〇六）指定
多くの公職を歴任し、水田造成のための水利事業を完成させるなど僅か十数年で本町の基礎を築き上げた翁の功績を讃え、村民一同感謝の意をもって明治

三十三年（一九〇〇）建立された。
又、角田村戸長役場（当時）庁舎が由仁より独立し、角田に建設された年でもある。



四、栗山親子獅子舞（無形文化財・民俗）

平成二十年（二〇〇八）指定
昭和五年に栗山町の富山県人有志で組織された中越懇話会が故郷から用具一式を買い入れて始められ、『越中の踊り獅子』と云われる。
それに勇壮な『加賀の勇獅子』とが一体となり、栗山独自の親子獅子舞となった。



五、栗山親子獅子舞用具（有形文化財・民俗）

平成二十年（二〇〇八）指定
創設当時の太刀五口、薙刀一振、短刀一口、獅子頭二頭、鎖鎌一挺、ひちりき一組

六、角田獅子舞（無形文化財・民俗）

平成二十年（二〇〇八）指定
昭和二十八年、町おこしの団体「角田十人会」が中心となり、四国讃岐地方の『二人立ち獅子舞』を原型とした舞を角田神社祭典に奉納、その後角田獅子舞保存会

が設立され、子ども獅子舞、青年獅子舞の二体制で継承されている。
『足ねぶり』『浮かれ獅子』『かがり火舞』の創作舞がある。
以上の六件は開拓記念館広報『アノ口』の第五十五号と六十号にその詳細が記載されているので今回はそれ以後の指定について記す事とする。

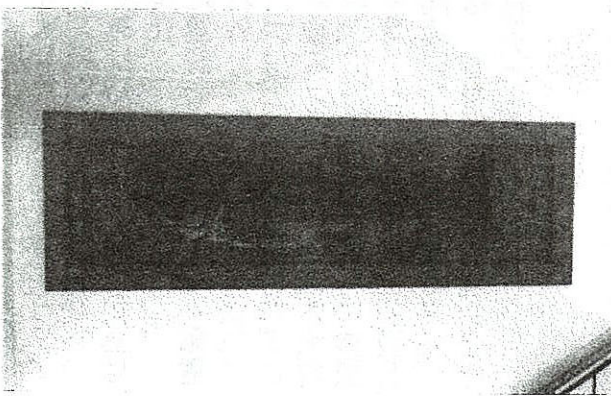


七、木彫りの鯉（有形文化財・美術品）

平成二十年（二〇〇八）指定
明治三十三年（一九〇〇）に栗山町雨煙別に入植した本田数馬（号・千瓢、明治二年〜昭和三十一年）が創始したもので栗山が発祥であり、翁の号から千瓢彫と称する。
本田翁は愛媛県温泉郡余土村字市の坪（当時）で出生。家は代々土地の素封家で、社寺へ多額の寄付するなど篤農家であったが、六歳の時、父を、十歳の時、母を相次いで失った。

少年の頃より絵や彫刻の才があり、十五、六歳の時、秋祭りの辻行灯などに祭り風景を描き、大人達を驚かしたという。
十七歳の頃松山在住の狩野派の絵師に日本画の手ほどきをうける。一九歳で従妹のコマ子と結婚し、種々の事業を行なうも成功せず、明治二十六年、二十四歳の時先に入植していた実弟の與市をたより北海道当別村に移住した。が、貸下地は農耕不適地のため新天地を求め、岩見沢村字一号橋に移転する。

明治三十三年、友人の勧めで現在地の栗山町雨煙別に北炭の山林地小作人として入植。山林事業の傍ら開拓農耕に励む。六五才の頃から仕事の合間に熊などの木彫を始めた。
昭和十五年七二歳の時に雨煙別川改修工事で掘り出された埋木の木目が鯉に似ているのを見て、以後鯉の木彫りに専念する事となり、広く世に知られる様になった。



翁は又、書や日本画・俳句に秀で、書は中村武羅夫の父（暹次）に、俳句は河東碧梧桐の父（静溪）の教えをうけている。（正岡子規と同門と思われる。）

このような素養に裏づけされた翁の作品は単なる民芸品としてではなく、美術品として高く評価され全国から注文が来たが翁は請われて作るだけで売ること好まなかったため、一目見たいとわざわざ遠方から訪れる人も多かった。

献上先、贈呈先は昭和天皇、今上天皇をはじめ各宮家、当時の鳩山首相、トルーマン米大統領、王子製紙の藤原銀次郎など枚挙にいとまない。

文化財に指定された作品は、昭和三十八年に役場庁舎が角田から栗山に移転、新築されたのを記念し本田翁から贈呈されたもので、鯉の体長一八〇cmにもなる大作で翁の遺作である。役場旧庁舎の二階への階段途中にその作品は掲げられており、訪れる人々を驚嘆させている。

八、深鉢形土器（有形文化財・考古

平成二十一年（二〇〇九）指定

昭和三十八年（一九六三）、鳩山2遺跡より出土。続縄文時代。

紀元前後の六〇〇年～七〇〇年の稲作技術や金属器を使用する弥生文化は北海道には伝播せず縄文時代を引き継ぎ、土器、石器を使用し漁労・狩猟を基盤とする北海道独自の続縄文時代に入った。

この土器は高さ三〇cm、口径二十五cmで煮炊きや貯蔵のために使用した。続縄文時代初頭のもので新冠町の大狩部式土器とほぼ一致する。



九、高木兼寛書掛軸（有形文化財・書跡）

平成二十五年（二〇一三）指定

高木兼寛（一八四九～一九二〇）は薩摩藩領の宮崎県穆佐村（現高岡町）で出生。八歳の頃から私塾で四書五経を学び、一七歳の時から医学、蘭学を学ぶ。

戊辰戦争（一八六八）に藩の軍医として従軍した際、漢方医の稚拙な治療を目のあたりにして、西洋医学の必要性を痛感し藩立の開成学校に入学し医学、英語、ラテン語を修める。

明治五年（一八七二）海軍に入り明治八年（一八七五）英国のセント・トーマス医学校に留学、明治十八年（一八八五）には海軍の軍医総監に昇進する。その間、海軍に脚気患者が多く死者も多数出る事を憂い、白米食を麦飯食に切り替えるなどの実験を重ね、その結果絶大な効果をあげ「ビタミンの父」と呼ばれている。

これらの事は吉村昭の名著『白い航跡』に詳しい。

又、東京慈恵会医科大学の創立者である。明治二十五年（一八九二）に貴族院議員に推され海軍を退役、翌明治二十六年（一八九三）に道庁の勧めで角田村を視察、夕張開墾起業組合や真成社の土地を買収する等その地籍は角田村に二七〇町歩、長沼村に一五四町歩にも及ぶ。

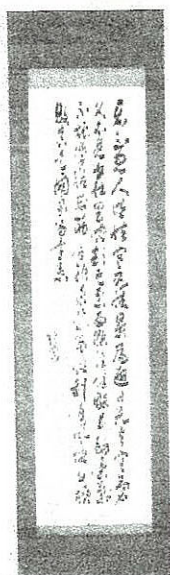
高木自身は毎年夏期には現地に赴いて入植者を励まし、また泉麟太郎等が企画した造田引水事業に側面から大いに寄与し、泉等を慰撫督励した。

又、角田神社、雨煙別神社の建設に当たっては土地を寄付するなど常に村の発展を祈念していた。

農場は長男の喜寛が引き継ぎ、管理は初代村長、則武鉄無の長男則武巖雄がその任に当たり農場事務所も建設されたが、近年老朽のため取り壊された。

この掛軸は、体を鍛えず薬だけに頼る当時の若者たちの軟弱さを歎いている。

高木家や則武家と交流があった人が、高木喜寛から贈呈され、現在開拓記念館に収蔵されているものである。



解説文

身不見人皆怯寒又怯暑為遍日光与空氣
又不見少壯男兒顔色惡面頭憔悴眼力弱意

不振学難成筋骨軟柔藥而将利有風俗旧類
敗真是国家百年患

穆園

十、乃木希典書掛軸（有形文化財・書跡）

平成二十五年（二〇一三）指定

乃木希典（一八四九～一九二二）は長州藩の支藩、長府藩士の江戸藩邸で出生。

幼兄より漢・詩文・武芸一般を学び、成人してからは、第二次長州征討、西南戦争などに参戦、明治二十七年（一八九四）歩兵第一旅団長（陸軍少将）として日清戦争に出征、旅順要塞を一日で陥落させた作戦に加わり有名を馳せる。

その後台湾総督などを経て、明治三十七年（一九〇四）第三軍司令官（大將）に親補され日露戦争に従軍、日本の勝利に貢献した。この時、敵のロシア国敗軍の将、ステッセルとの会見（水師官の会見）では極めて紳士的に相手の名誉を確保するよう接した。この事は世界的に報道され称賛されたという。

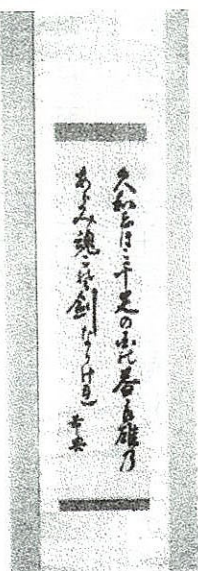
明治天皇はこの乃木の謹厳実直で古武士的精神を愛し、明治四十年（一九〇七）に勅命で学習院院長に指名する程であった。同年伯爵に列せられる。

大正元年（一九一二）、明治天皇大喪儀の當日、精神的支柱を失った乃木希典は妻の静子と共に自邸で自刃（殉死）した。

渡辺淳一著の『静寂（しじま）の声』にはこれらの事が詳しく書かれている。

栗山町湯地という地名は乃木静子（幼名・湯地お七）の実兄、湯地定基が拓いた農場の名であり乃木希典と湯地定基は義兄弟であった。

乃木はまた漢詩をよくし中でも『爾靈山・金州城外』・『凱旋』は特に優れているとされ、「乃木三絶」と呼ばれている。又この掛軸には日露戦争で乃木大將に従って旅順・二〇三高地の激戦に参謀中佐（後に少将）として参戦した伊豆凡夫の真筆に間違いのないとの箱書がある。この掛軸は、心身を鍛えた若者達こそが国を守る最大の力であると述べている。



解説文

久和志ほこ千足の国能益荒雄乃
あらみ魂こ楚剣なり計連

希典

箱書解説文

くわしほこ千足の国のま春りをのあらみ
魂こ楚剣なりけれ

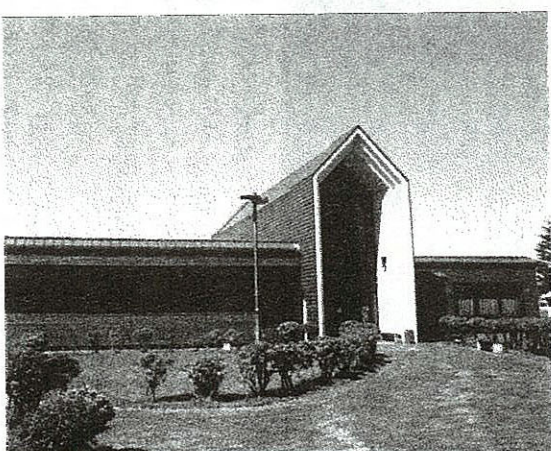
之一軸乃木將軍之真筆擬なきもの
尊重を望む

昭和八年五月十五日

尋將軍之知遇陸軍少将 伊豆凡夫識

以上が平成二十七年年度までに指定した文化財である。

この内、四、五、六の獅子舞関係はそれぞれの保存会が維持管理をしている。他は栗山町の所有であり、泉記念館や開拓記念館が収蔵していて、何時でも見れる様にしてある。（木彫鯉は役場旧庁舎）その他にも西郷南洲（隆盛）、高橋泥舟、井上圓了、石川理紀之助などの書や掛軸、川合玉堂、橋本雅邦、狩野探幽、谷文晁の日本画が収蔵されているが、真贋が定かではなく、泉麟太郎翁が残した膨大な資料もまだ未解説のものが多く課題となっている。



栗山町開拓記念館 研究員 出南 紘
栗山町教育委員会 発行